

履修証明プログラムにおける修了証明書（電子版）の開発と運用 －ポートフォリオおよびデジタルバッジとの連携－

Development and Issuing of Digital Certificate of Completion -Connecting to ePortfolio and Digital Badge-

長岡 千香子, 喜多 敏博, 平岡 齊士, 山下 藍, 鈴木 克明
Chikako NAGAOKA, Toshihiro KITA, Naoshi HIRAOKA, Ai YAMASHITA, Katsuaki SUZUKI
教授システム学研究センター
Research Center for Instructional Systems
熊本大学
Kumamoto University
Email: cnagaoka@kumamoto-u.ac.jp

あらまし：一般的に edX や Gacco といった MOOC プラットフォームでは、コースを修了すると電子版の修了証明書が発行される。しかしながら、それらの証明書に記載されている情報は学習者名やコースのタイトル等が記載されているのみであり、その人がコース内で何を学習したのかが不明確であり（キャリアアピール性の欠如）、将来、自身の学びを振り返るきっかけにもなりにくい（リフレクション機会提供の欠如）。そこで本センターで提供している履修証明プログラムでは、学習者のキャリアアピールおよびリフレクションを促すことを目的とした修了証明書（電子版）を開発し、実際に複数の科目を学習する履修証明プログラムで利用した。本大会では、証明書の全体像、実際の利用方法、アンケート結果について言及する。

キーワード：履修証明プログラム、証明書、eポートフォリオ、デジタルバッジ、リフレクション

1. はじめに

一般的にオンラインプログラムでは修了や参加に対して証明書が発行される。その証明書の利用方法として想定される事例として、プログラムで何を学習したのかについて就職先等に対してアピールする（キャリアアピール性）、将来、自身の学びを振り返るきっかけにする（リフレクション機会の提供）等が考えられる。

一方、edX や Gacco といった一般的な MOOC プラットフォームで発行される証明書に記載されている情報は主に以下の通りである（表 1）。

表 1：各 MOOC プラットフォームで発行される
証明書に含まれる主な項目

edX 修了証明書	氏名, コースタイトル, 発行機関/発行者名, 発行番号
Gacco 修了証明書	氏名, コースタイトル, 発行機関/発行者名
Future Learn 参加証明書	氏名, コースタイトル, コース概要（2 文程度） 発行機関/発行者名

表 1 の通り、一般的な証明書は学習者名やコースのタイトル等が記載されているのみであり、キャリアアピール性やリフレクション機会の提供という観点から見た際、十分な情報が記載されているとは言えず、あくまでプログラムを学習・修了したこと証明する程度にとどまっていると考えられる。

2. 修了証明書（電子版）の開発

本研究では、第 1 章で言及した 2 つの目的（キャリアアピール性とリフレクション機会の提供）を実現するために、修了証明書（電子版）を開発した。

2.1 修了証明書に記載される内容

修了証明書は学習者の氏名、プログラムの名称、デジタルバッジ画像、ポートフォリオへアクセスするためのボタン、発行者名が記載された「主要部 (P1)」と、プログラムの各コースの学習活動名、学習活動に関する簡単な説明、及びその合否状況が記載された「補足部 (P2 以降)」で構成される（図 1）。

2.2 修了証明書の仕組み

証明書は自動で発行される。主要部の氏名、デジタルバッジ画像のリンク先、ポートフォリオへアクセスするためのボタンのリンク先、補足部の各学習活動の合否は Moodle のプロフィール欄の値が反映される。学習者が Moodle にログインした状態でアクセスすると、自身のプロフィール欄に入力された値を元に証明書が作成される。証明書はリンク先などを保持した状態で PDF 形式でダウンロードも可能である。

3. 修了証明書の運用

開発した修了証明書は、実際に履修証明プログラムである「教育改善スキル習得オンラインプログラム（科目デザイン編）」（2019 年 12 月から 2020 年 3 月）で利用、発行された。証明書と連動させたポートフォリオ及びデジタルバッジの詳細は次の通りである。

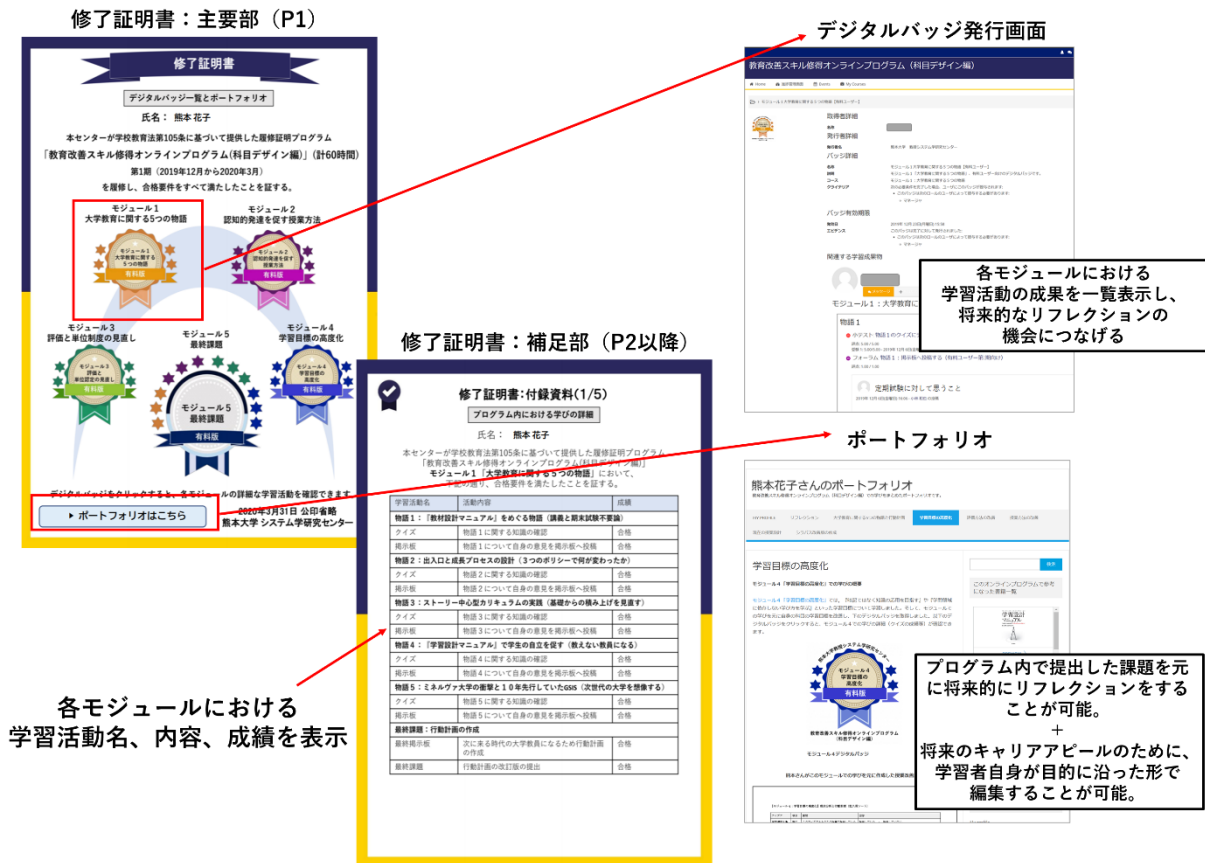


図 1：修了証明書（主要部と補足部）、デジタルバッジ、ポートフォリオ

3.1 ポートフォリオ

学習者はプログラム内で「モジュール 1：大学教育に関する 5 つの物語」, 「モジュール 2：認知的発達を促す授業方法」, 「モジュール 3：評価と単位認定の見直し」, 「モジュール 4：学習目標の高度化」といったモジュールと呼ばれる学習コンテンツを学びながら、自身が所属機関で担当する科目の改善を行う。ポートフォリオには、改善前と改善後のシラバス、各モジュールで提出した課題、課題に対する教員からのコメント等が記載されている。

また、「自分自身の学び（過去と現在の比較）」として、自身の参加目的（過去の状況）とそれを達成できたのか（現在の状況）について振り返る学習活動、「身につけた知識・スキルをどのように活かすのか（未来に向けた行動計画）」として、プログラムで学習した知識やスキルをどのように活かしたいと思うのかについてまとめるための「リフレクション」というページを設置している。尚、ポートフォリオのすべてのページは学習者自身が目的に応じて自身で編集することが可能である。

上記のように設計し、証明書から 1 クリックでアクセスできるようにすることで、プログラムで何を学習したのか、どのような知識やスキルを身につけたのか（キャリアアピール性）と、プログラム内で何を学習したのか振り返るきっかけの提供（リフレクション機会の提供）を実現した。

3.2 デジタルバッジ

学習者の各モジュールにおける学びは、Moodle のデジタルバッジ発行画面上で一覧表示される。デジタルバッジはモジュール(コース)ごとに発行され、発行画面上にはそのモジュールで提出した課題や受験したクイズの成績などが表示される[1]。証明書から 1 クリックでデジタルバッジの発行画面へアクセスし、そのモジュール内における学びが一覧で確認できるようにすることで、リフレクション機会の提供を実現した。

3.3 運用後のアンケート調査

本プログラムでは 10 名の学習者に対して履修証明書（紙媒体）とは別に修了証明書（電子版）が発行され、その内 7 名が事後アンケートに回答した。

「修了証明書は今後、どのような目的で利用しますか?」という質問に対して、「自身の学びを振り返るために利用する」と「将来、就職先等に提示することで自身の学びをアピールする」の両方と回答した回答者が 5 名、片方のみと回答したのは、それぞれ 1 名ずつであった。

参考文献

- (1) 天野慧, 長岡千香子, 喜多敏博, 都竹茂樹, 鈴木克明, 平岡齊士: “学習者個別の情報付与と他者への公開を可能とするデジタルバッジアドオンの開発”, 教育システム情報学会誌, Vol.36, No.1, pp.28-33 (2019)